| 事業番号 | 67 |
|---|---|

# 平成27年度 事務事業評価シート

## 事業の概要

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事務事業名 | 交通安全推進事業 | | | | | | | | 担当部 | 市民生活部 | |
| 会計区分 | 一般会計 | | | 事業類型 | 実施計画事業以外 | | | | 担当課 | 市民安全課 | |
| 事業期間 | 平成12年度以前 ～ 平成31年度以降 | | | | | | | | 担当係 | 交通防犯係 | |
| 総合計画分野別計画 主目的 | 1 安全・環境 | 2 生活安全 | 2 交通安全意識と交通マナーを高めます | | | | | | | | |
| 総合計画分野別計画 副目的 | | | | | | | | | 実施計画対象 | | |
| 予算区分 | 款 | 2 | 項 | 7 | 目 | 2 | 大 | 3 | 中 | 1 | |
| 根拠法令・個別計画 | | | | | | | | | | | |
| 目的（対象をどの様な状態にするのか） | 交通安全キャンペーンや交通安全教室等を実施し、交通ルールの遵守と正しい交通マナーを習慣付け、市民の交通安全に対する意識の高揚を図る。 | | | | | | | | | | |
| 内容（手段） | 春・夏・秋・年末の交通安全運動キャンペーン、子どもや高齢者等に対しての交通安全教室を実施するなど交通安全啓発を行う。また、高齢者のドライバー（75歳以上）へ運転免許証の自主返納を呼びかける。歩行者、特に子どもや高齢者が歩行中でも運転手側から発見しやすいように反射材などを配布して事故の予防につなげるとともに、個々人の交通安全意識の高揚を図る。<br><br>【運転免許証自主返納支援内容】<br>①交通安全啓発物品の贈呈(反射傘)<br>②写真付住基カードの無料交付<br>（※②は、小牧市住民基本台帳に記録され、住基カードを持っていない方に限る。）<br>ただし、上記支援は、1人1回限り<br><br>＜平成26年度実績直接経費の内訳＞<br>消耗品費 2,803,645円<br>愛知県交通安全協会小牧支部補助金 2,400,000円<br>学区交通安全推進協議会補助金 1,858,000円<br><br>＜平成27年度予算直接経費の内訳＞<br>消耗品費 2,767,000円<br>愛知県交通安全協会小牧支部補助金 2,400,000円<br>学区交通安全推進協議会補助金 1,920,000円 | | | | | | | | | | |
| 受益者負担 | 無 | | | | | | | | | | |

## コスト

| | | | 単位 | H24決算額 | H25決算額 | H26決算額 | H27予算額 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 費用 | 直接経費 | | 千円 | 7,104 | 6,489 | 7,062 | 7,087 |
| 費用 | 正職員 | 従事者数 | 人 | 0.35 | 0.35 | 0.35 | 0.35 |
| 費用 | 正職員 | 人件費 | 千円 | 1,841 | 1,841 | 1,841 | 1,841 |
| 費用 | その他職員 | 従事者数 | 人 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 費用 | その他職員 | 人件費 | 千円 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 費用 | 費用合計 | | 千円 | 8,945 | 8,330 | 8,903 | 8,928 |
| 費用 | 対前年比 | | % | | 93.1 | 106.8 | 100.2 |
| 財源 | 一般財源 | | 千円 | 8,945 | 8,330 | 8,903 | 8,928 |
| 財源 | 国・県支出金 | | 千円 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 財源 | その他財源 | | 千円 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| 事業番号 | 67 |
|---|---|

**業績**

| 活動指標名 | 単位 | | H24 | H25 | H26 | H27 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 交通安全キャンペーン活動 | 回 | 目標 | 12 | 12 | 12 | 20 |
| | | 実績 | 18 | 15 | 36 | |
| 交通安全教室 | 回 | 目標 | 30 | 30 | 30 | 40 |
| | | 実績 | 26 | 41 | 97 | |
| | | 目標 | | | | |
| | | 実績 | | | | |

| 成果指標名 | 単位 | | H24 | H25 | H26 | H27 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 交通事故件数 | 件 | 目標 | 1,200 | 1,200 | 1,200 | 1,200 |
| | | 実績 | 1,125 | 1,104 | 1,006 | |
| 運転免許証自主返納者数 | 人 | 目標 | 50 | 50 | 50 | 50 |
| | | 実績 | 19 | 19 | 28 | |

**事業の自己評価**

| | | |
|---|---|---|
| 平成26年度の実施結果 | 事業の達成状況 | 交通事故件数を、昨年度に引き続き減少させることができ、目標を達成することができた。しかしながら交通事故による死亡者は7名（前年比＋2名）であり、特に7月の短期間に3件の交通死亡事故が発生するという非常事態であった。そのため、老人クラブなどに積極的に啓発した結果、交通安全教室の開催回数が大幅に増え、多くの参加者に対し、交通安全を呼びかけることとなった。 |
| | 事業実施における課題 | 交通安全の啓発活動については、常に、全年代に対し実施する必要がある。また、自動車の運転手のみならず、自転車の運転者に対しても安全運転マナーの向上を図る必要がある。 |
| | 事業を縮小・廃止したときの影響 | 交通安全の啓発活動が廃止されれば、ドライバーや歩行者のマナーやモラルの低下により、交通事故の増加が考えられるため、縮小や廃止はできない。 |
| 平成27年度の改善内容 | 27年度における事業の改善・見直し内容（新規追加事項、廃止・削減事項等） | 自動車の運転手とともに、自転車の運転手の安全運転マナーの向上がされるよう、啓発を行っていく。補助金について、引き続き適正に利用されているか、確認・検査を行う。交通安全啓発品は、より交通安全意識を高揚し事故防止につながるよう、常によりよい啓発品の選定を行う。 |
| 平成28年度の事業の方向性 | 方向性の判定 | 維　持　／　事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの（対象や手段を見直す場合も含む） |
| | 判定理由 | 交通安全キャンペーンや交通安全教室を通し、交通安全の大切さを訴え、事故防止を徹底するための活動を、継続して実施することが、事故防止につながるものであるため。 |
| | 28年度以降の改善案 | すべての世代に交通安全意識が浸透されるよう、交通安全啓発事業を継続的に実施するとともに、さらに幅広く広報できないか、見直し・検討をする。 |

**二次評価**

| 方向性の判定 | 判　定　理　由 |
|---|---|
| 維　持 | 一次評価のとおり。 |